

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> ○ねばり強く学ぶ態度 ○自分で考える、考えようとする ○人の意見を聞き、よりよく考える ○基礎的・基本的な知識・技能の習得

授業改善の重点
<p>繰り返しの学習で基礎基本の定着を図る。</p> <p>少人数指導や東京ベーシックドリル、補習の時間を活用して、算数の知識・技能の習得の徹底を図る。</p> <p>ICT機器の活用を通して、児童の興味関心や学習意欲、理解度を高めつつ、情報活用能力や情報モラルなどの定着を図る。</p> <p>すべての児童に分かりやすい授業を行うために、特別支援教育の手法を取り入れる。</p>

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ○相手意識や目的意識を明確にさせる。 ○単元のゴールモデルを示し、学習の見通しをもたせる。 ○単元を振り返り、自分の学びや変容を自覚させる。 ○自分の思いや考えを言葉で表現させる。 ○既習事項と関連付けて自分の考えをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○リコーダーや鍵盤ハーモニカの演奏技能を身につけさせ、他の楽器の演奏意欲をもたせる。 ○リズムやハーモニーを楽しみながら歌えるよう、自然で無理のない歌い方を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○目的に応じて、地域の人材を有効に登用して、探求的な学習を深めていけるようにする。 ○クロームブックやプロジェクターなどのICT機器を積極的に活用し、はじめに設定した自己の課題を解決するための力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳の時間を要として教育活動全体を通じて道徳性を養う。 ○自分の考えたことを基に、書いたり話し合ったりして考えを表現する機会を充実させる。 ○自分と異なる考えに接することで、自分の考えを深めることを図る。
	社会科	図工科		
	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の見学を行う体験的学習や外部人材を活用した学習を積極的に取り入れたり、資料や写真を活用したりして、問題解決への意欲を伸ばす工夫を図る。 ○統計、年表、図などの資料の基本的な見方、読み取りを重点的に指導し、様々な資料を読み取る活動を通して、これらの技能を教科に限らず活用できる力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題解決に向かう姿勢・意欲を育てる。 ○豊かな発想をし、手や全体を十分に働かせ、表し方を工夫する力の育成を図る。 ○身近にある作品などからよさや面白さを感じ取る力の育成を図る。 		
	算数科	家庭科	特別活動の指導の重点	外国語活動(3・4年)の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ○東京ベーシックドリルやプリントの活用、補習の時間を通して、基礎的・基本的な知識と技能を確実に身に付けさせる。 ○具体物や表、グラフ等を活用して、自ら解決する力・思考力・表現力を向上させる。 ○日常生活と結び付ける具体的活動を行ったり、既習事項を踏まえた学習を行ったりして、数量や図形についての感覚を豊かにさせる。 ○中学年以上は、少人数(習熟度別)クラス編成をして、児童の実態に合わせてクラスごとに指導計画を立てきめ細かな指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。 ○様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。 ○家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら気付き、進んで取り組む児童を育てる。 ○学校生活の充実を図るために、諸問題を話し合い、主体的に解決する態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に発話、できるように、変化のある繰り返して児童を飽きさせずに発話量を確保する。 ○ICT機器を有効に活用し、外国語活動に主体的に取り組もうとする態度を養う。 ○言語活動を中心にALTとコミュニケーションをとる中で、オールイングリッシュの授業を目指す。
	理科	体育科		
	<ul style="list-style-type: none"> ○科学的な言葉や概念を使用して考えたり説明したりする活動を充実させ、観察実験の過程・結果を的確に表現する能力の育成を図る。 ○基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。(科学的な知識・理解の定着を目指す) 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の動きを動画で撮影し、考えたことなどを伝える活動を取り入れる。 ○運動の動きの見本を動画で確認させることで、運動の理解を高める。 ○自身で何度も取り組んだり、行い方を試行錯誤したりしながら、運動に親しむ心情を育てる。 		
	生活科	外国語科(5・6年生)		
	<ul style="list-style-type: none"> ○1学年は、4月の「スタートプログラム」を行い、幼稚園・保育園の生活からのスムーズな移行をさせる。 ○1年間を通して楽しく遊びながら季節の移り変わりを感じさせ、探究心や問題解決の素地を養う。 ○2学年は、観察したことをワークシートにまとめたり、友達の発表を聞いたりしながら、生き物に興味・関心を持たせる。 ○自分の成長記録をまとめることで成長した喜びを味わわせ、意欲的に生活しようとする素地を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動を中心にALTとコミュニケーションをとる中で、オールイングリッシュの授業を目指す。 ○ピクチャーカードやICT機器を有効に活用し、英語の語彙力を高める。 ○書く活動においては、手本や例示により全員が書くことができる状況にする。 		

本校の授業改善に向けて	ICT機器の活用	認め合う・学び合う集団の形成	見通しをもたせる導入
	<ul style="list-style-type: none"> ○chromebook及びGsuite for educationを活用して、学習上の情報交換、情報共有を効果的に行ったり、課題発見や課題解決力を高めたりして、主体的・対話的で深い学びを実現していく。 ○情報活用能力と情報モラルを高めつつ、情報化社会を生き抜くための資質能力を育むために、日常的にICT機器を活用できる環境を整備していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○chromebook及びGsuite for educationを活用して、学習上の情報交換、情報共有を効果的に行ったり、課題発見や課題解決力を高めたりして、主体的・対話的で深い学びを実現していく。 ○情報活用能力と情報モラルを高めつつ、情報化社会を生き抜くための資質能力を育むために、日常的にICT機器を活用できる環境を整備していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○chromebook及びGsuite for educationを活用して、学習上の情報交換、情報共有を効果的に行ったり、課題発見や課題解決力を高めたりして、主体的・対話的で深い学びを実現していく。 ○情報活用能力と情報モラルを高めつつ、情報化社会を生き抜くための資質能力を育むために、日常的にICT機器を活用できる環境を整備していく。